

Charles Altura Trio

[Profile]

チャールズ・アルトゥラ Charles Altura : guitar



1981年、サンフランシスコ出身。
スタンフォード大学を卒業後、プロとして活動を開始。
2009年にアルメニア出身のピアニスト Tigran Hamasyan のアルバムに参加したのを皮切りに、2010年には上原ひろみも参加してグラミー賞を獲得した Stanley Clarke の話題作『The Stanley Clarke Band』にも名を連ねた。
そして、2013年に Chick Corea が若手を集めて結成した The Vigil のメンバーに抜擢。Chick がギタリストを起用するのは久しぶりということもあって、一気に注目を集めると、同年9月にはその Chick Corea & The Vigil で初来日し、第12回東京 Jazz Festival、ブルーノート東京にも出演した。
2015年には Terence Blanchard のアルバム『Breathless』やその Terence 率いる E-street Band のツアーにも帯同。

クリス・トーディーニ Chris Tordini : bass



1984年生まれ。
New School University でジャズとコンテンポラリー・ミュージックのプログラムをロリー・スチュアート、アリ・ホニック、ジョージ・ガーゾンに学ぶ。
2006年に卒業後、アンディ・ミルンのバンド "Dapp Theory" に参加し「Layers of Chance」(2008) のレコーディングに参加する。
その後グレッグ・オスビー、ジェレミー・ペルト、ジム・ブラック、アンドリュー・ダンジェロ等と共演する他、ローガン・リチャードソンの "シフト"、ベッカ・スティーブンスのバンド、ジャンミッシェル・ピルク・トリオ / カルテット等にも参加している。
2010年ヤロン・ハーマンのアルバム「Follow the White Rabbit」のレコーディングに参加する。
2007年から2013年までの間に17回のレコーディングセッションに参加している。
ダフニス・プリエト、マーク・シム、ジョン・エリス、リッチ・ペリーなど、今日の最も魅力的なミュージシャンと共演のほかに、Mike Pinto, Tommy Crane, Logan Richardson, Frank Locrasto, Greg Ruggiero, Collin Killalea, Tyshawn Sorey, Becca Stevens, Tigran Hamasyan 等の才能のある若手ミュージシャンと頻りに共演している。

ヘンリー・コール Henry Cole : drums



1979年、プエルトリコ、マヤグエス生まれ。
「Conservatorio de Musica de Puerto Rico」でクラシック・パーカッションを学ぶ。
1998年、ボストンのバークリー音楽大学に進みジャズの勉強に没頭するが翌年には帰国しプエルトリコ最大の都市サンファンで最も人気と影響力のあるドラマーの一人になる。
オールド・サンファンの多様な音楽シーンは自身の形成において非常に貴重な経験をもたらした。「島(プエルトリコ)はとても小さかったけどその分、何をするのにも動きやすくて多くのことを学んだ。僕はロック、サルサ、ジャズ、エレクトロニカみたいなジャンルの違う音楽を同じ週の間にあちこちで演奏していたし大学はすぐそこにあった。」と回想し述べている。
その頃すでに、Giovanni Hidalgo, Dave Valentin, Jerry Gonzalez, Danilo Pérez, Branford Marsalis, Luis Marin といった多数の著名なアーティスト達と共演を果たしている。

2003年の秋からは拠点をニューヨークへ移し、マンハッタン音楽学校にて奨学金を獲得し John Riley のもとで学び始める。

卒業後は、Chris Potter, Adam Rogers, Drew Gress, The Chico O' Farrill Afro-Cuban Big Band, Ray Barretto, Orlando "Puntilla" Rios, Papo Vazquez, Perico Sambeat, Paquito D' Rivera, David "Fathead" Newman, Kenny Werner, Mark Turner 等のビッグネーム達と次々に共演やレコーディングを果たし、ビレッジバンガードといった有名ジャズクラブへも多数出演。サンノゼマーキュリーニュース紙や All About Jazz, Jazz Times など各メディアからもこぞって称賛を受け、アメリカはもちろん、ヨーロッパ、アジア等世界各国へのツアーで活躍することとなる。

2010年には、故郷プエルトリコで自身のオーケストラ "The Afrobeat Collective" とともに「Roots before Branches」をセルフリリース。

熟練プレイヤーとの共演/レコーディングばかりでなく、2012年には若手気鋭のピアニスト Fabian Alamazan のアルバムにも参加など、精力的な活動展開は今後も注目必至である。ヘンリー・コールは21世紀において、押し寄せる異文化間のリズムとジャズ革新の波の最前線にいる。